

# 現場の安全かわらばん

第11号

発行日:平成19年7月24日  
発行元:宮城県土木部事業管理課

## 安全のトピックス

- ・建設業における総合的労働災害防止対策（厚生労働省）が14年ぶりに改定されました。
- ・平成19年度工事事務防止重点対策（東北地方整備局）が策定されました。
- ・平成19年度県工事事務防止対策事業計画が決定されました。
- ・県工事における労働災害件数が平成18年を上まわりました。一層の事故防止を願います。



## 熱中症を知る

梅雨入り前の猛暑後、梅雨入りした途端に気温が下がり肌寒い毎日ですが、これから気温が上がってくると、熱中症に注意していかなければならない時期に入っていきます。

熱中症による死亡災害事故は宮城労働局のデータによると毎年20人前後にものぼっています。中でも建設業が8割以上を占めます。建設業においては炎天下での作業となることからですが、工事現場以外の場所でも発生している例がありますので注意を要します。

時期的には7、8月が最も多く、時間帯としては15時台が最も多い状況ですので休憩時間に十分に水分補給をして十分な休息をとりましょう。しかし17時や18時といった時間帯にも発生しているので、油断は禁物です。

熱中症は怪我とは違い、急に症状が現れるとは限りません。関係者が熱中症に対して十分認識していないと、発見が遅れ対応が不十分となったり、1人で行動していたために、発見されたときにすでに死亡していたという事例もあるので、労働者の健康状態を常に確認することが大切です。また熱中症には複数の症状があり、その症状に応じて適切な処置を行わなければなりません。

### 【熱中症の分類】

#### ①熱射病（日射病）

熱中症の中では致命率が高く、緊急の治療を要する。高熱とともに意識障害を生じる。前駆症状としてめまい、悪心、頭痛、耳なり、イライラなどがみられ、嘔吐や下痢を伴うこともある。発汗が止まり、熱い乾いた皮膚になり、体温は通常41℃を超え、42℃以上に達することも少なくない。

#### 〈救急措置〉

裸体に近い状態にして、冷水をかけながら扇風機の風を当てる。氷片でマッサージする。アルコール綿で全身を拭くなど、あらゆる手段を用いて体温の低下を図る。

#### ②熱けいれん

大量の発汗による塩分喪失に対して、これを補給しなかったことよって起こる。筋肉が、疼痛を伴い発作的にけいれんを起こす。熱けいれんでは、体温はあまり上昇せず、血圧の変化もないことが多い。

#### 〈救急措置〉

0.1%の食塩水を飲ませて涼しいところで休養させる。

#### ③熱虚脱

高温環境下では体熱放散を盛んにするために、皮膚血流量が増加し、血圧が低下するので、代償的に心拍数が増加する。高温暴露が継続し、この心拍増加が一定限度を超えたときに起こる循環障害を主体とする症状を熱虚脱という。熱虚脱では、全身倦怠・脱力感を覚え、めまいから意識混濁し、昏倒することもある。心拍は頻脈で微弱、血圧は低下している。体温の上昇はほとんどみられない。

#### 〈救急措置〉

涼しいところで安静にし、水をとらせる。

#### ④熱疲労

大量の発汗で、血液が濃縮し、心臓の負担増大や血流分布の異常が起こると、初期には激しい口渇、尿量の減少がある。やがてめまい、四肢の感覚異常、歩行困難などがみられ、失神することもある。頻脈・体温上昇をみることもあるが、多量の発汗で皮膚は冷たく湿っている。血圧の異常をみないのが普通である。

#### 〈救急措置〉

涼しいところで安静にし、水をとらせる

### お役立ちリンク

#### 「熱中症予防情報」

日本気象協会において暑さの指標「WBGT 値」を用いた5段階で都道府県毎、一週間分の予報を公開しています。現場の熱中症予防にお役立て下さい。

<http://www.tenki.jp/>

## 上手な水分のとりかた

水分を取るのに、水を飲むのが一番簡単ですが、ただの水の場合、吸収スピードが遅いため回復が早くありません。そこで塩分を加えることで、吸収スピードを早くでき、塩分の補給もできます。また糖分を加えることによりエネルギーの補給にもなります。これをうまく作ったものが市販のスポーツドリンクになります。水分をとるタイミングとして、休憩

時間が一般的ですが、「乾いた」と思ったときは既に脱水が始まっていますので、早め早めの水分補給が必要です。あまりにも暑い日には10時、15時の休憩時間にとらわれず、現場監督が定期的に水分補給させるということも必要です。